

第一場

晩夏。葛飾区の狭小住宅の前庭。シナヒイラギの生垣が通りの目を遮っている。窓が開け放たれていて、板の間にはキャンプ用のローテーブルがある。

容子が板の間に座り、窓の外に足を投げ出している。竹ざるを膝の上に立てて、その網目を見たり庭に目をやったりしている。

藤子が、くず餅の入ったガラスの小鉢を両手に持って奥からやってくる。

藤子 はい。前にさ、シンクが汚れにくくなる薬のこと話してたよね。

容子 薬？ ああ。

藤子 ワックスか。シンク全体に塗って何時間か置くと、水垢がすぐにはつかなくなるっていうワックスの話してたでしょう。

容子 うん。

藤子 あれは今使ってないんだ。

第22回AAF戯曲賞受賞記念公演

とりこ

容子 え？ どうして？
藤子 シンクが半分汚れてるから。
容子 嘘、汚れてる？
藤子 いやちょっとね。
容子 カレイの血かな。
藤子 血か。汚れがもう少し赤茶けてるから、掃除をしてないんじゃないやなくてむしろキッチンを長く使っていないのかなと思ってる。ちょっとぎよつとしちゃった。

容子 昨日は気を失うように寝たからさ。

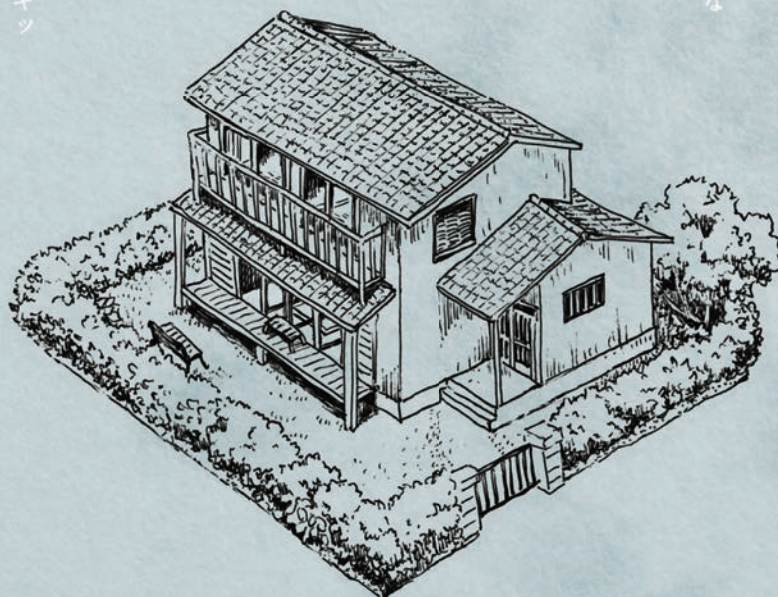
藤子 カレイは何にしたの？

容子 煮付け。

藤子 へえ。ご飯は食べた？

容子 少しだけ。カレイが煮立ってから、最後にはうれん草を二束切って、脇に突っ込んでじゃえね、それで野菜も摂れるから楽だよ。

藤子 美味しそうだなあ。お母さんさ、食べる専門の方になること、これまでそうなかったでしょう。



作…村杜祐太朗

演出…澄井葵

出演…江上定子

中澤陽

二瓶翔輔

山口未知（劇団四級遊撃隊）

演出…羽鳥嘉郎

出演…石田みや

古賀菜々絵

斎田実優（アメージングプロモーション）

池田大知

2025年

12月19日(金)、20日(土)、21日(日)

各日14:00開演

愛知県芸術劇場小ホール

愛知県芸術劇場

芸術監督 唐津絵理

2025.12/19(金)、20(土)、21(日) 各日14:00開演

ロビー開場：開演30分前／客席開場：開演15分前

上演時間：2 作品あわせて計2時間30分程度の予定（休憩時間含む）

愛知県芸術劇場小ホール（愛知芸術文化センター地下1階）

地下鉄 | 東山線または名城線「栄」駅下車、徒歩5分（オアシス21地下連絡通路または2F連絡橋経由）
名 鉄 | 瀬戸線「栄町」駅下車、徒歩5分（オアシス21地下連絡通路または2F連絡橋経由）



関連企画

11月22日(土) 10:00-12:00 ケアについて考える演劇ワークショップ
「聞くことと演劇－クライアントの言葉に何を思うか」（有料・要予約）
ファシリテーター：村社祐太郎

12月19日(金) 終演後 アーティストトーク（無料・予約不要）

12月20日(土) 終演後 感想シェア会（無料・要予約）

※お申込方法など詳細は劇場ウェブサイトでご確認ください。

チケット料金

全席自由・整理番号付（税込）

19日(金) 一般：3,000円 U25：1,500円

20日(土) 21日(日) 一般：3,500円 U25：2,000円

早割り一般：3,000円（10月21日(火) までのご予約が対象）

U25は公演日に25歳以下対象（要証明書）、中学生以上推奨

車いすでご来場の方は、チケット購入後、劇場事務局までご連絡ください。

チケット取り扱い

【チケット発売 9月12日(金) 10:00～】

愛知県芸術劇場オンラインチケットサービス
<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event/>



愛知芸術文化センタープレイガイド（地下2階）

TEL 052-972-0430 10:00-19:00 土日祝休10:00-18:00（月曜定休／祝休日の場合は翌平日）

開演後のご入場はお待ちいただく場合があります。

やむを得ない事情により、内容・出演者等が変更になる場合があります。



劇場と子ども7万人プロジェクト

小・中・高校生招待対象公演（要事前予約・枚数限定・先着順）
中学生以上推奨



鑑賞サポート

12月21日(日) 13:00- 見えない見えにくいの方のための事前舞台説明会（無料・要予約）

12月21日(日) 日本語バリアフリー字幕（ポータブル）の貸し出し（無料・要予約）

お申込方法など詳細は劇場ウェブサイトでご確認ください。

【託児サービス（20日公演のみ）】

対象：満1歳以上の未就学児 料金：1名につき1,000円(税込) 申込締切：12月13日(土) 12:00

託児お申込み：オフィス・パレット株式会社 TEL 0120-353-528（携帯電話からは052-562-5005）

受付時間 平日 9:00-17:00 土 9:00-12:00（日祝休み）

『とりで』作者・村社祐太郎

やり取りが進むにつれて読みやすくなる時、いくつか不安にもなる。このひとはこの顔をしているべきなんだろうか。あるいは声ももうある気がしているが、これはいつか聞いたことがあるようだ。似ているものをなぞりながらすれば手早く済むことが多いが、「似ている」とは違いが分かっているときに使う言葉でもある。もう一度考えるのもよくその後だと思う。

演出・澄井葵

家に居る、ということを考えています。これまでにどんなことがあって、ここに居ることになっているのかとか。ここで、どうやって、生活をするかになっているのかとか。人が暮らすということの、途方もなく積み上げられたものや時間や質量を感じさせられて、クラクラします。

そういうあらゆる積み上がりの中、いつも演劇がやっていることとして今回も、一瞬一瞬のできごとの軽重を感じてもらいたいと思っています。

「陸の孤島」と呼ばれる住宅地の空気、空き部屋の増えたがらんとした家、そこに住まう人々の孤独。とりどめのない家族の会話と静かな時間。演劇作家・村社祐太郎が執筆した会話劇『とりで』を、澄井葵、羽鳥嘉郎の2人の演出家が異なる視点で創作し、連続上演します。そして、建築家中山英之がデザインする舞台美術により、客席空間では普段とは違った感覚がもたらされます。ぜひ劇場で体験してください。



第22回AAF戯曲賞受賞記念公演

【STAFF】舞台美術デザイン：中山英之

照明デザイン：吉本有輝子 舞台監督：北方こだち

プロデューサー：仲村悠希

【助 成】文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業））
独立行政法人日本芸術文化振興会

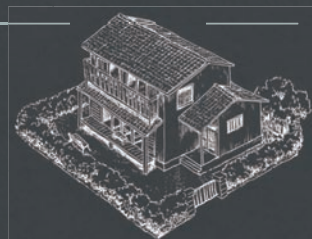


【主催・企画制作・製作・お問合せ】

愛知県芸術劇場（公益財団法人愛知県文化振興事業団）

TEL 052-211-7552（10:00-18:00）

〒461-8525 名古屋市中区東桜1-13-2 E-mail contact@aaf.or.jp



演出・羽鳥嘉郎

伏見のどあるネパール料理屋の、トイレへの道のりから、私たちは多くの靈感を得ました。音波の話をしながら俳優は「けんば」と言い、子どもが稽古場で寝てしまうときもあります。私たちの上演モデル、一度きりで終わらないそれは、こうして育まれています。「ふしぎなことは偶然じゃない」のでした。そしてここに、すばらしいスタッフワークが新たに加わります。ぜひお越しください。



©HATORI Naoshi



©HATORI Naoshi

チラシデザイン：とりやまゆり